

2025年 1月25日印刷
2025年 2月 1日発行
(毎月1回1日発行)

2025 February

フルコンタクト KARATE

VOL. 107
MAGAZINE

定価 本体690円+税

世界王者と熱戦！ 極真全日本4位

“千葉の猛牛”

白石正幸



芦原英幸の内弟子・西山亨
「ケンカ十段の真実」

最強を作るフィジカルトレーニング / JKJOシニア優勝・古賀裕和
黒澤賢太郎「点と円で倒せ」 / 岡田侑己「新極真KGC変化無双」
連合会新ルール「ハートポイント制」 / 佐藤嘉道「太氣拳の精髓」
拳真祭ワールド空手GP / JKJO全日本Jr.&JKCインカレ入賞者

極真会館小嶋道場 設立50周年記念パーティー
小嶋由起子事務長 85歳記念パーティー
令和6年9月22日



極真会館小嶋道場 50周年！
さらなる飛躍への挑戦！

極真ゆかりの地・房総で半世紀



パーティーの一次会を締め括る、正拳突きの際頭指揮を執るのは現・会長主席師範の小嶋剛也。

「千葉の猛牛」伝説



極真創立前からの縁、恩義を感じて、家族ぐるみの付き合いがあった大山と先代師範・小嶋幸男。

極真創立前からの縁

白石の近影（3年前撮影に、小嶋の突然の来訪にも快く応じてくれたもの）。

9月22日、オークラ千葉ホテルにおいて、極真会館小嶋道場が盛大な式典を開催した。「道場設立50周年」と先代師範・小嶋幸男夫人「小嶋由起子事務長85歳」を共に記念したパーティーである。千葉そして小嶋道場は、大山倍達がその名を知らしめる「牛殺し」とそのための修行を行った極真ゆかりの地であり、さらに極真創設以前より小嶋とは縁ができていて、小嶋道場は世界的組織に拡大し多忙となっていた大山も道場開きや映画の撮影のために訪れていた重要拠点である。そこで今回は、道場サイトが上がっている「道場のあゆみ」を基にしつつ、当時の貴重な写真や直近での50周年記念パーティーの様相までの豊富な資料を揃え、開設当時から道場生として見届けていた現・会長主席師範である小嶋剛也の解説を交えて振り返る。特に小嶋道場から輩出された名選手として、全日本大会で四位に入賞し、時の世界王者にも真っ向から立ち向かって「千葉の猛牛」と称えられた白石昌幸について、そして白石に次いで全日本大会入賞を果たした現・市原支部長の高橋衛にも詳しい話を聞いて、道場の歴史と共にまとめてみた。

（本編はP12より）

極真ゆかりの地・房総で半世紀

◆戦前からの縁

小嶋道場設立の経緯を遡ると、1942年7月に起こった山梨県での出来事に行き着く。小嶋道場の創設者であり先代師範の小嶋幸男の叔母（母親の妹）・七澤まさ子の証言によると、



若き日の先代師範・小嶋幸男と事務長・由起子夫妻。夫婦揃って小嶋道場を育てていった。



小嶋道場常設道場開きにて、青年時代の恩人で先代師範小嶋幸男の叔母・七澤まさ子（前で着席している女性）とも再会できた。

から可愛がられたという。

当時、山梨の航空整備学校の学生だった大山は、飲食店の前で順番待ちしていたが、空腹のあまり倒れてしまう。そこを近所の学生が介抱してくれて、国際商会という店を経営する一家宅に下宿することになった。その国際商会こそが、七澤が経営している宝石商だったのだ。当時小学生だった先代も幼くして父親を亡くしており、母親兄弟六人と一緒に暮らしていたので、大山



最初に設けた千葉支部としての道場は、団地の集会所。外で型を行う先代。

戦中から戦後、物の無い時代を過ごした大山が、生前道場生に対して強く訴えていた「一番怖いのは飢え」という言葉にもあるように、まさに空腹で行き倒れていたのを救ったのが出会いのきっかけに。腕白な幸男少年に大山は良い兄貴分となって、約1年余り世話になった後に上京している。

なお、映画『空手バカ一代』で、大



支部長の任を受け、極真の発展に命を懸ける決意に燃える先代。

◆支部長任命

山が居候している洋服店「テーラー小嶋」は、その関係性をモチーフにしたものだ。小嶋が後に洋服店を開いた際にも、そこで個人としての仕立て注文はもちろん、極真のジャケット等も発注するようになり、両者の揺るぎない関係性を感じさせた。大山は生涯、小嶋家への恩を忘れなかったのだ。

手家として著名になっていったことも影響したのであろう、30歳の時に極真空手修行を開始する。その辺りに関しては、真樹日佐夫著「極真カラテ二十七人のサムライ」（真樹が編集・制作に関わった「現代カラテマガジン」の連載「真樹師範代の黒帯交友録」をまとめて書籍化したもの）に、以下のよう

に記されている。

若い時分には他流派の空手にいそしみ、段持ちであることは知っていたから、その延長だろうくらいに受け止めて、

「まあ頑張つてよ」と励ましたものの、事情を聞かされ

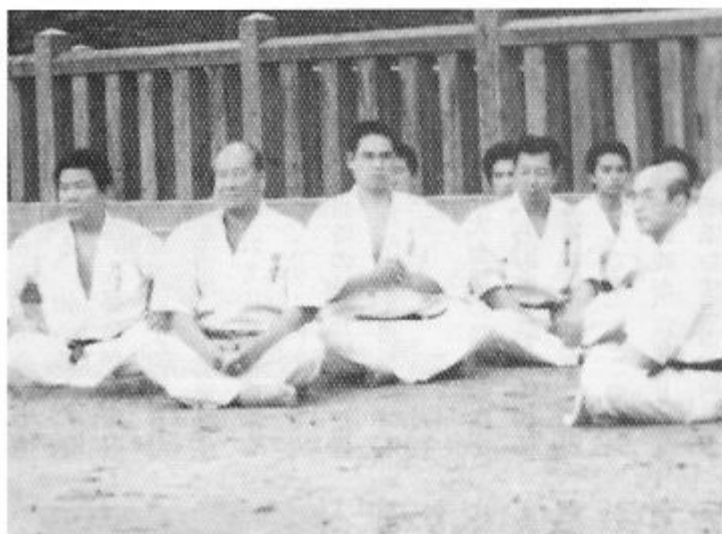


小嶋一家と佐藤勝昭。佐藤がすっかり馴染んで、世界大会合宿にも訪れるように。



佐藤勝昭、東孝が総本部より指導の手助けをしに訪れていた。佐藤に抱かれているのが幼き頃の現会長主席師範。二人は道場の第1回審査会にも招かれ、特別審査員を務めている。

て仰天した。
大山に支部を開かないか、と持ちかけられ、応諾してのことであるという。
(中略)
彼は当時すでに三十半ばを越えており、果たして名うての荒行に随っているものか、どうか。



支部長合宿に参加した時のもの。左より先代、大山。

つまり、入門時から支部長を目指しての修行開始だった、というのだ。年齢的な問題もあって真樹も心配している記述があるが、その後2年で黒帯取得を成し遂げ、満を持して支部長就任への準備を整えていく。
そして、記念すべき1974年9月1日、大山より認可を受けて、千葉県に於いて初となる支部道場を開設。場所は稲毛区あやめ台団地集会所で、当時7歳だった当代師範・殉也も含めた十四名で道場の歴史が始まった。
「設立当初のメンバーの一人、丸田晃弘さんには、現在は道場の相談役を



支部長合宿は筑波山や湯河原で行われた。写真はホテル内の広間で行われた合同稽古。

務めていただいています(P24のパーティーの模様参照)。大手航空会社に勤務されていて、その後コンビニエンスストアのオーナーに転身されています。パーティーではピンゴゲーム大会を行ったんですが、その賞品としてデイズニードのペアチケットをご提供いただきました(小嶋、これ以後の発言の「小嶋」は全て現・会長主席師範を指す)

設立当時は、指導の助けに本部指導員で現役選手として名を馳せていた佐藤勝昭(1971年第3回・1974年第6回全日本大会&1975年第1回全世界大会優勝。現・佐藤塾宗師)や、東孝(1977年第9回全日本大会優勝。後に大道塾を発足。故人)、山田政彦(後に極真会館長崎支部長を経て新極真会長崎支部長。故人)らが派遣されていた(佐藤、東は12月の昇級審査にも審査員として参加)。
翌年には外房浪花海岸において、第1回目の夏期合宿が敢行される。この時はまだ二十名の参加だったが、後に大所帯となるまで拡大している。さらに、佐藤勝昭が世界大会に向けての特別合宿を同地で行い、小嶋道場からも参加。その世界大会での優勝は、佐藤からの最大の恩返し。小嶋道場の貢献



左端・先代、右端・大山。揃って突きを出す。



同じ千葉県での手塚道場が開催した大会で、主審を務める先代師範。極真会館という組織の中でも、徐々に重責を担うようになってくる。

穴澤廣明さんと中根等さん（元木更津支部長。支部道場は中



1978年の第四回夏合宿。三列目中央の黒い極真Tシャツの人物が白石、二列目右から二人目が小嶋。

があったから勝てた、とも考えられる。40年以上の年月を経て、佐藤塾が千葉県勝浦に支部道場を開設した2022年には、小嶋道場生が招聘されて佐藤が講師を務めるセミナーに参加したのも、当時の恩義に報いた佐藤の義理堅さを連想させる出来事だ。

「世界大会前の強化合宿をやりたいたいとのことで、佐藤師範から先代に相談がもちかけられたんです。そこで、先代師範の親戚が、岩船という所（千葉県いすみ市、外房最東端の辺り）で当時漁業をや



穴澤 廣明

①20才②1級③3年
④169.6cm56kg⑥千葉

1976年の第8回全日本大会に挑んだ穴澤。大会パンフレットより。

根元支部長の父からの貸与）が参加されました。中根さんは15歳で本部道場に入門して、現在は木更津で起業して成功を収めています。その中根さんの指導を直接受けていたのが、安藤浩二さんです。

安藤さんは19歳で木更津支部に入門して、今では銀座に設計会社（株式会社バクトルジャパン。中

国・大連にも支社がある）を構えて、上場目指して頑張っています。千葉県

大会の会長でもあるんです。今でも道場へ稽古に

来ていますし、最近もシニアの部で優勝したりも

しています」（小嶋）

◆全日本挑戦開始



先頭に立って指導に励む先代と、すぐ後ろ(右)に穴澤。その右の少年が現会長主席師範。『極真カラテニ七人のサムライ』にも掲載されたスナップ。



森田 信司

①19才②1級③3年
④166cm54kg⑥東京

穴澤と共に全日本に最初に挑んだ森田信司。千葉支部小嶋道場の、集会所時代のナンバー1の強さだった、と小嶋は振り返る。

1976年には第8回全日本大会に小嶋道場から前述の穴澤、そして森田信司、岡部正武の三名が出場し「穴澤さんは第9回大会にも出場し

たんですが、初戦の相手が大石代悟現
 ・世界総極真代表) 師範で、先代は事
 前に知っていたんですけれど1週間前ま
 で伝えなかったんです。伝え
 た後の1週間は毎晩うなされ
 たそうで、初日は決死の覚悟
 で臨んだんです。ところが、
 当日欠席したということでは
 ツとしていました。ただ、大
 石師範の試合を楽しみにして
 いた超満員の観客から一斉に
 「エーッ!?」と残念がる声か
 上がりましたね(小嶋)
 大石は第3回全日本大会で



初代木更津支部長・中根等による跳び蹴り。野外で撮影しているのは、当時道場として使っていた施設では道場生全員が入り切らないで外でも稽古していたため。



集会所の前で当時の道場生一同で。後列右端が先代、後列その隣に森田。最前列右から三人目が現会長主席師範、五人目が正也。

三位に入賞し、さら
 らに第6回全日本
 では初戦から四試
 合連続一本勝ちを
 果たして六位に入
 賞、直前の世界大会
 でも四位に入賞し
 ている優勝候補の
 一人で、鮮やかな
 上段蹴りの使い手
 として「妖刀村正」
 の異名を取る人気
 選手だっただけに、
 観客の多くが落胆
 して大きな溜息を
 ついたのもうなず
 ける。

そして1978年は、大きな飛躍の
 年である。まず、全道場生待望の常設

道場が設
 立された
 (現在の
 総本部道
 場)。玄
 関周辺の
 タイル張
 りが、ど
 ことなく
 総本部道
 場正面玄
 関を思わ



本部常設道場設立を祝って、大山も道場開きに訪れた。

せる造りになっており、先代師範の極
 真への愛着、こだわりが強く感じられ
 る。道場開きには大山も訪れて、少年
 時代から知る先代の成長を祝った。
 さらに同年には、映画「最強最後
 のカラテ」(1980年正月公開。
 1979年に開催された第2回全世界
 大会の模様を収めている)の撮影のた
 め、大山が千葉の御宿海岸にロケに訪
 れた折には道場生約百名が撮影に協力
 した。

◆「猛牛」の活躍

1979年、8月にはもはや恒例
 となった第5回目になる夏期合宿が、
 九十九里運沼海岸にて行われる。参加



大山を歓迎する少女(先代の次女・幸代)からの花束贈呈という微笑ましい一幕に、大山も後ろの先代師範も満面の笑み。

者は一回目の四倍の八十名にまで増え
 ていた。

同年11月には前述の第2回世界大会
 が開催されて、中村誠が優勝。当時は
 三瓶啓二と共に二強として君臨する



道場開きで、憧れのゴッド・ハンドとの記念写真という至福の場に参加すべく集まった当時の小嶋道場生一同。



環境が整い、思う存分稽古に励む。選手育成にも力が入り、強豪が次々と育っていった。

1981年頃の道場稽古の様。現会長主席師範・殉也の兄である正也(中央)と、中根(右)。

まず、1980年の8月に開催された小嶋道場内全日本選抜試合(千葉県大会の前身)で優勝し、全日本大会出場の内札を手にする。11月の第12回全日本大会に初挑戦。三回戦では突きで一本勝ち、続く四回戦では体格で勝る田原敬三(4年後の第3回世界大会でウイリー・ウイリアムスを破ったこと)で知られる強豪。故人)を下段廻し蹴りによる合わせ一本勝ちを奪って準々決勝に勝ち進み、驚異の新人として一躍注目される。準々決勝では後の世界チャンピオンで天才と持て囃された松井章圭に敗れるも、初出場で八位に入賞する。

「三誠時代」真っ只中だが、ここに挑んだのが千葉支部が生んだ「猛牛」と、白石昌幸だ。



1983年に撮影された、会長主席師範(当時16歳)と生前の正也(同21歳)との兄弟組手。

死闘を演じる。延長戦までは抗ったが、身長で20cm上回る中村に惜しくも敗れる。三位決定戦では、前回準々決勝の再戦となる松井との対戦となり、本戦0-0、延長で松井に一本上がり、再延長で3-0でこれまた惜しくも敗れるが四位に入賞する殊勲。翌年1月には大山より白石に年間敢闘賞を授与されたことから、その健闘を大いに称えられたと言っても差し支えないだろう。白石はその後警察学校に入学し、警察官として定年まで勤め、現在は稲毛海岸の方に居を構えて隠居状態だという。歴史の証人、輝かしい実績を持つ元選手として当時のエピソードや、試合で用いた技術について詳しく伺ってみたい。本誌としても小嶋を通じて取材依頼はしているのだが…。

さらに翌年の1981年の第13回全日本大会でも、本戦フルマーク判定で順調に進み、世界チャンピオンとして優勝候補筆頭に挙げられた中村とも



1978年に映画の撮影のために御宿海岸を訪れた大山と、協力した小嶋道場生一同。

「ぜひ誌面にも大々的に登場していただきたい、そうでないとあの功績が埋もれちゃうじゃないですか、とお願ひしても「俺はいんだよ。そのため試合に出ていたんじゃないから」と遠慮されてしまうんです」（小嶋）

謙虚な姿勢は若い頃から一貫していて、普段は穏やかで気さくな人柄だとして、小嶋は当時の白石にも懐いていたが、一方道場での組手は鬼のように



初出場が入賞し注目選手として名を挙げた白石は、続く第13回大会では「驚異のブルファイター」と紹介された。



現在の小嶋道場の壁に描かれている壁画は、前ページ掲載の正也が蹴った時のポーズが元となっている。「1962年に生誕した兄は、当道場の黎明期に父の元、空手の修行に励み、小柄ながら空手センスは抜群でした。道場の後を継ぐなら兄だと言われていましたが、もともと体が丈夫では無く42歳の若さで急性心不全により逝去しました。兄貴の功績を称え、この蹴り姿を道場の壁に描きました」（小嶋）

「すごくやっつけているように見える。でも、確かに中村誠師範との試合とかを見れば、「あれに比べたら、確かに道場では半分くらいの力でやっつけてくれたんだな」と納得します。本当に、傍で見ていても、皆やられてしまっていましたから、ものすごく強かったと思います」（小嶋）

具体的にどのような組手スタイルだったのか、という点について小嶋にう

「白石さんと組手をする、誰でもすぐに倒されてしまうんです、そこで必ず言うのが「軽くやっただけだね」という一言なんです。本人にとってはそうなんですよ。「そんなに強くはやっつけないよ」ということなんですよ。うけど、もう側からしたらもの

強かった。

「白石さんと組手をする、誰かがうと、攻撃力はもちろん強いのだが、「猛牛」と呼ばれるイメージとは違って、驚くほど柔軟性に富んでいたという。」

「突きと下段蹴りが強いのは当たり前なんですけど、体がものすごく柔らかいんです。股関節から肩関節まで全部柔らかいんです。バネ感もありまして、当時から道場の中でも胴廻し回転蹴りをやっていました。しかも、胴廻し回転蹴りで蹴った後にパン！と立つんです。蹴った後、転倒した状態にならないで、そのまま構えに戻る。足も高く上がります。私の見ていた記憶の限りでは、黒帯の先輩に攻撃を入れられて効かされていたことが無いくらい打たれ強いのに、ディフェンスも機敏にできる。技の攻防も、すごく上手でした。」

「突きと下段蹴りが強いのは当たり前なんですけど、体がものすごく柔らかいんです。股関節から肩関節まで全部柔らかいんです。バネ感もありまして、当時から道場の中でも胴廻し回転蹴りをやっていました。しかも、胴廻し回転蹴りで蹴った後にパン！と立つんです。蹴った後、転倒した状態にならないで、そのまま構えに戻る。足も高く上がります。私の見ていた記憶の限りでは、黒帯の先輩に攻撃を入れられて効かされていたことが無いくらい打たれ強いのに、ディフェンスも機敏にできる。技の攻防も、すごく上手でした。」



前回の健闘ぶりから、三位決定戦では「松井の宿敵」として紹介された白石。敗れてなお、極真大会史に名を残した。



中村誠戦の直後、その傍らには現会長主席師範が付いていた。

「負けたんですけれど、誠師範とあれだけ戦えた、と

改めて、世界チャンピオンの中村誠

と対戦してみた結果、決していきなり圧倒されたり技を痛烈に効かされて技



激闘を終えた後の心からの抱擁。以後、白石は戦いの場を警察職という正業に変える。



先代は熱心に道場に通う白石を家族ぐるみで可愛がっており、20歳になった時には宴席を設けて祝った。白石の左には現金町支部長・古川明美も。「13回大会終了後には、近所の中華料理屋で入賞祝賀会をやりました。先代は当時、一番気にかけていたから、入賞を非常に喜んでいましたからね」(小嶋)

ありや一本を奪われることもなく延長戦までやり合えたことは、判定の結果負けるとはいえ、空手家・白石にとって大きな手応えとなった。「負けたんですけれど、誠師範とあれだけ戦えた、と

「同行していた中村賢一さんから聞いた話ですが、けっこうな勢いで攻めていって、突き蹴りをガンガン入れていったそうです。三瓶師範は受ける感じで平気な顔はしていたんですけど、ちよつとバランスを崩したりした場面もあったそうです。控室で、中村辰夫師範に、「あんなケンカみたいな組手するな!」とすごく怒られたとか。

と対戦してみた結果、決していきなり圧倒されたり技を痛烈に効かされて技

「全員のばしてやるからな!」と脅して。白石さんが道着を着るのをやめた、と聞いています」(小嶋)



先代より、極真会館小嶋道場のジャケットも、オーダーメイドで買ってプレゼントされた。道場前にて。

「同行していた中村賢一さんから聞いた話ですが、けっこうな勢いで攻めていって、突き蹴りをガンガン入れていったそうです。三瓶師範は受ける感じで平気な顔はしていたんですけど、ちよつとバランスを崩したりした場面もあったそうです。控室で、中村辰夫師範に、「あんなケンカみたいな組手するな!」とすごく怒られたとか。

つたばかりの時で、まだ道場にも顔を
出していた時なのですが、由起子事務
長の発案で全日本大会に出る選手の大
めの稽古をする「実戦会」を日曜日に
始めて、そこで組手の相手していただ
きました。めっちゃめっちゃ強かったで
す。30秒と立ってられなかったんです
から。私だけでなく、そこにいた道場
生全員も挑みましたが、ボコボコにさ
れていました。当時は防具も無い素手
素足でしたから。そして下段蹴りが特
徴的なんです。私もそれを教わった
わけではないんですけど、真似して練
習しました」(高橋)



先代に可愛がられた白石が、恩返しに若い頃の現会長主席師範を可愛がる。



現役引退後の2000年2月、久しぶりに道場を訪れた白石(中央)、右が中村賢一。

◆極真と小嶋道場勢の成長

1984年には1月の第4回全世界
大会と共に、4月に千葉県大会も開催。
現在まで回を重ねる、歴史ある大会の
第一歩を踏み出した。

さらに12月、映画「世界最強のカラ
テキョクシン」(1985年1月公開)
撮影のため、千葉寺に大山が来訪。小
笠原和彦(前年の第15回全日本準優勝、
実施の2週間前に第16回全日本大会で
五位入賞)が挑む百人組手の相手役と



1982年の第14回全日本選抜戦として行われた、第3回支部大会。



白石現役引退を受け、後に続けとばかりに勇猛果敢なぶつかり合いが見られた。

して、道場生三十人が参加する。なお、
挑戦は四十三人までで完遂できず。

1986年には三回目の千葉県大会
が開催されて、大山が来場する。さら
に会場には、かつて千葉の清澄山で山
籠もり合宿に参加した共田徳龍も訪
れて、大会会長を務めた。件の合宿は、
大山が牛殺しのための特訓を行うため
のもので、極真最高師範となる黒崎健
時や関西総本部を創設する岩村博文と
いった極真創成期を支えたメンバー四
人で行われていた。いわば、千葉県大
会会場が大山の最も熱心に稽古に明け
暮れた期間を過ごした同胞との再会の

場となったのである(大山の稽古に付
き合っていた他の三人があまりのきつ
さに辞易する、といったエピソードが
後に明かされている)。

「この年の第18回と、20回の全日本
大会には、ウチから白石さんとほぼ同
期の中村賢一さんが出ています。選手
として白石さんほどの実績はありません
んが、仕事も優秀で大手不動産会社で
トップセールスの記録を打ち立ててい
ます。今は会社を移って、そこでも専
務になりました。大会成績においては
やはり白石さんがウチでは一番です
が、他の小嶋道場出身者も社会人とし



優勝したのは、前年の第2回大会では白石と決勝を争い、準優勝となっていた高品伸一。

て大成しているんです」(小嶋)

1988年には、前述の高橋が千葉県大会でも優勝し、第20回全日本大会で五位に入賞している。高橋が入門したのは、まだ白石が選手を引退して就職のために道場を離れる、ちょうど入れ替える時期。組手は一回やっついてくるくらいで、実力もまだまだだったことを考慮しても「今までで下段蹴りを一番効かされたのは白石先輩だけ。吹っ飛ばされて、立ってられない」と語っているのを小嶋は聞いている。

現在は小嶋道場の市原支部長も務めている高橋に、現役時代の話を聞いてみた。

「高校1年の時に本部のある稲毛の隣にある市原道場に入りました。一生懸命通っていたので、1級に昇級で

来た時に先生から実戦会に参加してもらうように促されて、本部にも行ってました」(高橋)

そこで白石の洗礼を受けたことは前述の通りだが、挫けずに稽古に言い続けた高橋。実戦会では、白石以外の隠れた強豪にも鍛えられた。小嶋道場が全日本大会の選抜戦として行っていた試合で、1983と1984年に優勝した高品伸一である。ちなみにこの試合の1981と1982年の優勝者が白石で、高品は1982年に準優勝していて、高橋も1984年に四位に入賞。ちょうどリレー形式に小嶋道場から全日本に挑む選手が育っていたのがわかる。



高橋が全日本大会に挑んだ際の模様。対入来武久戦。

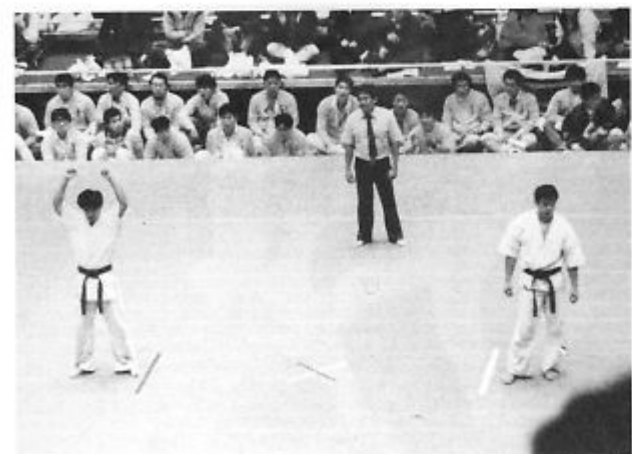


同じく高橋が挑んだ全日本大会。増田章と体重判定に至る接戦を演じる。

「高品先輩は身長180cm、体重80kgはあった先輩で、この人にも毎週ボコボコにされていました。全日本大会にも二回出ていますし、あの堺貞夫さん(松井章圭の攻撃技を捌き切ったことで知られる城南支部の選手で現・極真拳武會主席師範。本誌Vol.54特集参照)と対戦して勝利したこともあります。その高品先輩が、白石先輩のことを「道場で一番強かった。誰も勝てない」とおっしゃっていましたから。白石先輩が就職で辞めないで空手を続けていたら、極真の歴史は変わっていたでしょう。何しろ中村誠師範、松井章圭館長という二人の世界チャンピオンをしても、白石先輩には完全に効か

せることができなかつたくらいです。規格外の強さでした。本当に毎日道場に来ていましたからね。実戦会のある日曜日は稽古が三部あるんですけど、それも全部出てしまうし、誰も来ていない日でも、一人だけ来ていたこともありましたよ。だから、小嶋師範も白石先輩のことを家族のように思っていました」(高橋)

件の高橋の方も、実戦会に顔を出し続けた。そこでの稽古内容は、最初に突きと蹴りを五十本ずつやったらあとはひたすら組手で、合計1時間半。毎週日曜日、1週間足の痛みを引きずってまた参加して、倒され続けてきたという。その実戦会で揉まれ続けて、勇



既に「四強」の一角として君臨し始めていた増田に勝利し、当時はまだ禁止されていなかったガッツポーズを取る高橋。



1986年の第3回千葉県大会には大山が来場。かつて清澄山で牛殺しのための特訓に付き合った共田徳龍(車椅子に乗った人物)と再会を果たす。



夏合宿の現場にも、共田は訪れた。

共田は訪れた。ずかしくない試合をしよう、と挑んでいたの。その次の石井豊師範との試合で敗れてしまいました(石井は決勝まで進み、桑島保浩に敗れて準優勝。第5

躍全日本大会に挑んだ高橋。そこで当たった対戦相手は、極真史に名を残す実力者揃いだ。何しろデビュー戦の相手からして豊田宣邦。第18回全日本大会で優勝候補だった黒澤浩樹を跳び膝蹴りで倒して一本勝ちしたり、第2回全日本ウェイト制で軽量級三位に入った選手だ。さらに、その黒澤とも対戦している。他にも第16回全日本八位の湯澤元美、第22回全日本王者の増田章、第1、2、4、6回全日本ウェイト制重量級王者・七戸康博、第2回全日本ウェイト制中量級優勝の incoming 武者久とも戦っている。中でも、三誠時代の後を担った「四強」の一人、増田からは勝利を奪っている。

10kg差があつて勝利することができなかつた。その時の増田師範は、固かつたというか動きがあまり良くなかつた印象がありました。私は当時は会社勤めしながらの選手生活でしたが、千葉からは二人しか全日本に出場できる枠が無かつたので、千葉県大会チャンピオンとして恥



先代と共に、野外稽古に励む小嶋道場生を見守る共田。

この頃から「明らかなダメージが無くても、アウトボクシング的な動きも評価される」という判定基準の変化が見られてきた。高橋も構えている内に判定で負けを宣告されたりして不完全燃焼に思うように感じたことから、ウェイト制へと主戦場を移すようになった。これは千葉から全日本(無差別)に出場する枠が二つだったため、後輩



1986年8月、共田が末期癌で入院。大山はお忍びで千葉の病院まで見舞いに訪れたが、共田は10月に逝去した。隣は会長主席師範の兄・正也。



選手育成や支部展開拡大、と順調に道場を立派なものにしていった小嶋夫妻。写真は1996年頃撮影で、惜しくもこの年に逝去された。

に委ねたという事情もあった。最初は

中量級で、後に重量級に転向して挑戦し続けた。中量級時代は第3回全日本ウェイト制中量級優勝の橋爪秀彦や、正道会館の後川聡之とも戦っている。他にも小笠原和彦や岩崎達也、塚越孝行といった極真ファンお馴染みの強豪勢と軒並み対戦しているが、公式で一本を奪われたのはただ一戦、ロシアのコーチキン・ユーリ（極真選手としては第6回世界大会にも出場、プロに転向してリングスやPRIDEでも戦った）との試合だった。

「下段蹴りで技ありを奪われて、合わせ一本負けしました。白石先輩に倒されて以来、初めて下段を効かされて敗れました。33歳になった時の第12回全日本ウェイト制、組織が分かれてNKホールで行われた時に全日本挑戦はひとまず終えることにしました」（高橋）



納骨式に集まった道場生・関係者一同。

◆先代の人柄

白石、高橋以外にも世界大会に出場する選手を出したり、全日本大会での上位入賞者を次々と輩出した選手育成実績を認められ、先代師範には1991年に大山より極真貢献賞を授与された。

前述の白石に対しても祝勝会を催したり、弟子に対しての世話を焼いていた小嶋。高橋も、先代師範に対しては選手としての経験があつてそれを伝えるように細かく技術指導をする、力で引く張る、といった部分よりも、稽古以外でも何かと気をつけてくれる面に恩義を感じていた。大山が、かつて行き倒れた際に小嶋の叔母に世話になったように、元来面倒見が良いタイプでもあったのだろう。これも



先代亡き後も「小嶋道場の母親」として、会長主席師範はじめ道場生を見守り続けている事務長。



第13回千葉県大会は先代師範追悼大会として開催され、総本部より故総裁夫人の大山智弥子が来場。



左より高橋、現会長主席師範、中村賢一、在りし日の先代と共に。



左より中村賢一、現会長主席師範、高橋。2023年には先代の後を継ぎ代表師範だった小嶋殉也が、会長主席師範に就任した。

前述の真樹著『極真カラテ二十七人のサムライ』に、小嶋に関する印象深いエピソードとして挙げられてた節を、再び引用したい。

年に一度の支部長合宿で、大山ともども筑波山に出かけたときのことだ。この合宿は支部長各自が自分の所の黒帯を何人が同道してもよいことになっており、小嶋も二人ばかり連れて参加した。

大山自らが陣頭に立つての三時間特

訓もどうやら無事に終わって宿舍の部屋で、冷蔵庫のビールで喉を潤していると、小嶋が血相を変えて飛び込んできた。

私と小嶋、それに神奈川支部の渡辺十也が同室だったのだ。

「どうかしたの？」

私が聞くと、小嶋が傍らに突っ立ったまま、

「私の連れてきた黒帯の態度が礼節に欠けるといふことで一部の支部長の怒りに触れ、吊るし上げられようとしているんです」

(中略)

件の支部長たちも了承してくれた。

「それにしても凄い見幕だったじゃないか」

その夜、部屋に落ち着いてビールを

飲み交わしながら私が冷やかすと、「弟子のためなら死んでもいい、と思ったままですよ」

と小嶋は照れ臭そうに頭を掻いた。

◆二代目師範へ

しかし、1994年4月16日に大山が死去。さらに1996年4月17日に先代・小嶋幸男が死去する。後継は、

小嶋殉也が師範として任命されて、同

年8月に開かれた第13回千葉県大会は「小嶋幸男師範追悼大会」として開催され、総裁夫人の大山智弥子が来場している。

50年を経て、極真をはじめとしたフルコンタクト空手の道場の役割・存在意義も変わってきてしまった。空手道場のあり方も、時代の流れに或る時は従い、或る時は逆らいながらも綿々と歴史が紡がれていく。道場で汗を流した人々にとっては、間違いなく青春の1ページを過ごした拠り所でもあるのだから、安易に開いては潰れる町の飲食店、商業施設のようになっては寂し過ぎる。

また、小嶋道場で最も輝かしい選手実績を残した白石に対しても、「老兵は死なず、ただ消え去るのみ」とばかりに、道場に姿を見せないながらも、小嶋を含めて関係者は再会・道場復帰を期待してやまない気持ちでいる。

そして、本誌としても取材対象として白石がいつか登場してくれることを期待しながら、本特集を終えることとしたい。



2024年10月19日には、第28回極真空手道小嶋道場千葉県ジュニア選手権を開催。さらに同年11月23日には、千葉県武道館にて第26回千葉県マスターズ選手権、第24回千葉県レディース選手権、第34回小嶋道場ウエイト制交流試合の三大会を同時開催した。

盛大！
豪華！

過去最大の出席者が集結



地元の名士が多数来場。前列左から順に会長主席師範、千葉県知事・熊谷俊人、事務長、千葉市長・神谷俊一、衆議院議員・田嶋要。



前ページで登場済みのOBも多数揃った。前列左から二人目が丸田晃弘、右から二人目が中根等、二列目左から二人目が安藤浩二、四番目が中村賢一、五番目が穴澤廣明。皆、小嶋道場50年の歴史を訪いできたメンバーだ。



最古参メンバーの一人、丸田の挨拶を横で見守る会長主席師範。

小嶋道場ではこれまでも節目の年には周年記念パーティーを開いていた。2004年には30周年記念で後援者・OB・道場生280名が参加。2009年には35周年&小嶋由起子事務長70歳記念パーティーとして300名が出席。2014年の40周年&事務長75歳記念パーティーにも300名が出席。2019年45周年&事務長80歳記念パーティーでは270名が出席したが、直後に起きたコロナ禍で、道場運営に大いに支障をきたした。その危機を乗り越えて、迎えた今年の、50周年&事務長85歳記念パーティーには、遠方からは大阪や福井、新潟、さらに九州の福岡からも集結。実に320名の出席者があった。

今年までに千葉県下に本部及び支部を合わせて道場が二十三ヶ所、そこに現役道場生とOBの千名以上が在籍中。設立からの延べ入会者数は一万三千人超えだという。

「ウチの道場から全日本に出ている方は、就職したりして選手生活も短くて、皆が実績を重ねたわけではないんですけど、空手で培った体力や気力、ものごとに取り組み原動力なんかを仕事に活かしたんじゃないですか。そういった方は今でも良いお付き合いをさせていただいています」（小嶋）



同じく紹介される元木更津支部長・中根。



会長師範から紹介される中村。第20回全日本に挑むも初戦から桑島保浩に判定3-0で敗れ、引退した。桑島は優勝。

実戦会メンバーらに 50 周年記念パーティー
よる演武。小嶋道場 35 歳記念パーティー
選手は、千葉県大会 月 22 日

以外にも交流のあった極真清武会主催の全日本ウエイト制にも毎回挑んでおり、多数の優勝者を出している。以下、近年のものだけで河本憲聡（2006年第7回無差別級）、佐藤克彦（第7～8回軽量級連覇、第11～13回中量級三連覇）、新井康昭（第8回中量級）、石井和人（第13・15・17回中量級）、岡田進吾（第20回中量級）。また、壮年の部でも、2022年の第51回全日本大会において、田口研二が50歳以上の部で優勝。翌年の第5回極真連合杯世界大会に日本代表として出場している。

「河本君も今はビルフォームという会社を父親から受け継いで経営していて、ものすごい良い仕事をしているそうです。パーティーのビンゴゲーム大会の賞品にも、スマートウォッチを提供してくれました」（小嶋）



市原支部長・高橋衛には功労賞と、副賞として大山信達直筆サインを額に入れてプレゼント。

副主席師範・依田信正には貢献賞が贈られた。

OBや支部長、現役道場生等関係者が提供してくれた豪華賞品（プレステや掃除機、ドライヤー、ディズニーランドペアチケット等時価数万のもの！）を目指して、ビンゴゲーム大会で老若男女が大盛り上がり。



二次会では、やや打ち解けた雰囲気ですらに旧交を温める。



二次会の乾杯の発声を行う会長主席師範。「まだコロナ禍等の苦勞は終わったわけではありませんが、皆さんの協力でこういった催しが開けました。感謝しております」（小嶋）



相談役・安藤浩二にも、大山信達直筆サインを額に入れてプレゼント。



事務長、会長主席師範夫妻とその子息で小嶋一家勢揃い。



大山総裁と先代師範の遺影を背に、パーティに参加した人々を優しく見渡す由起子事務長。先代と過ごしてきた半世紀以上の年月に思いを馳せていたことだろう。



会場には三十近いテーブルが用意されながら、座り切れない程賑やかな催しになった。



少年部に通う道場生達も、せっかくの機会で会長主席師範と記念写真撮影。将来、何十周年記念で撮った姿が見たいものだ。



余興として、八街支部によるコントが行われ、会場の雰囲気もさらに温まる。



正業で忙しくなって普段はなかなか会えなくなっていたOB達も、再会を喜んでた。



二次会にも多くの人が残り、しばしの別れ、宴の終幕を惜しむかのようにいつまでも語り合い続けた。そして、さらに剛の者は三次会になだれ込んだという。

千葉に根付いて半世紀!

極真会館 小嶋道場

二十以上の支部道場も展開!

総本部住所 千葉市稲毛区園生町511-42

TEL 043-253-2797

kyokushinkojima.sakura.ne.jp

